

Conventional method and Proposed method

- > Conventional perception method
 - Perception based on joint angle data Only perceives easy manipulations ("pick and place", "peg in hole")
- Proposed Method
 - > Attaching a tactile sensor sheet to manipulated object
 - ➤ Detection of the contact position data from this sheet
 - Perception based on contact state transition on the palm surface

Complex manipulations are accompanied by frequent variations in contact state

Conventional method and Proposed method

- > Conventional perception method
 - Perception based on joint angle data Perceive only the easy manipulations ("pick and place", "peg in hole")
- Proposed Method
 - > Attaching a tactile sensor sheet to manipulated object
 - > Detection of the contact position data from this sheet
 - Perception based on contact state transition (on the palm surface)
- Advantage
 - Precise contact position data
 - Perception of the complex manipulations accompanied by a frequent variation in contact state

Conclusion

- ➤ Measurement of the contact position data
 - ➤ The precise contact points on the object surface / parts on the palm surface
- Perception of manipulation based on contact state transition
 - > Construction of the contact state transition diagram
- Experiment
 - > Six tasks accompanied dextrous finger actions is conducted
 - ➤ The average perception rates of five tasks out of six was 87.8[%]
- Future work
 - To perceive one task, the multiple model sequences are used
 - ➤ An optimum partitioning of the palm surface for classification
 - ➤ An automatic generating of the contact state transition diagram

5人の被験者の認識率(タスクa,タスクb) 認識率(認識回数/試行回数) 認識 被験者 I III III VI V 全員 全

認識率(%) 全員 タスクa 5/6 2/5 5/5 4/5 1/5 17/26 65.4 5/5 5/5 2/4 21/23 タスクb 5/5 4/4 91.3

タスクa 手全体把握から指先把握

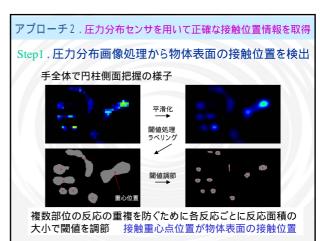
認識率の高い被験者(I,III,VI)と低い被験者(II,V)に分かれた低い被験者は全ての掌面が接触を伴う状態"31"が出に(V)い傾向が見られた

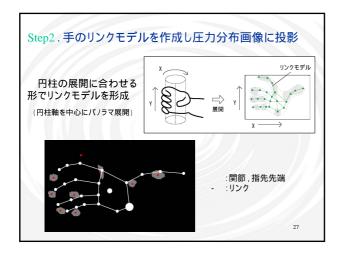
タスクb 指先把握から手全体把握

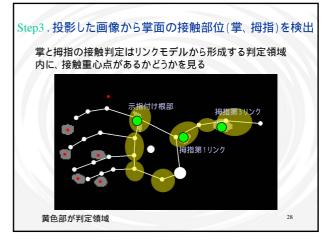
全員の認識率が91.3[%]と高かった 状態遷移の個人差は見られなかった

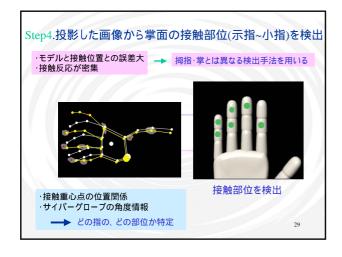


状態"31"



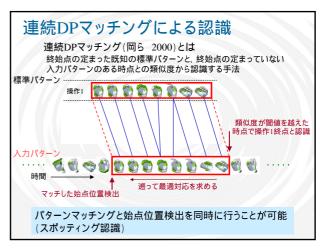


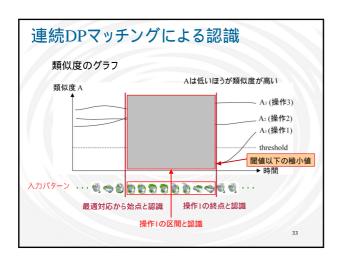


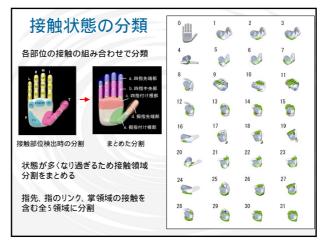


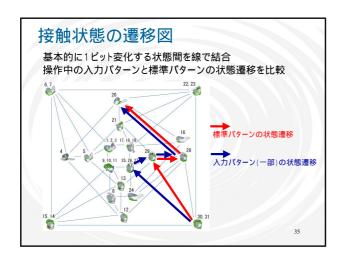


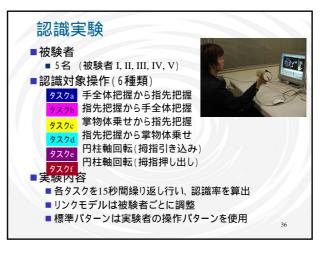




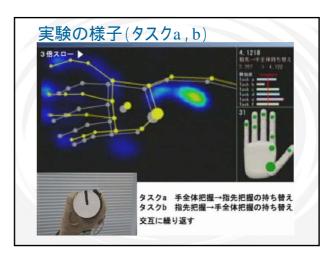


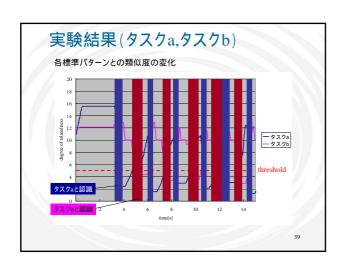












5人の被験者の認識率(タスクa,タスクb)

認識率(認識回数/試行回数)							認識率(%)
被験者	I	II	III	VI	V	全員	全員
タスクa	5/6	2/5	5/5	4/5	1/5	17/26	65.4
タスクb	5/5	5/5	4/4	5/5	2/4	21/23	91.3

タスクa 手全体把握から指先把握

認識率の高い被験者(I,III,VI)と低い被験者(II,V)に分かれた低い被験者は全ての掌面が接触を伴う状態"31"が出に(N傾向が見られた

タスクb 指先把握から手全体把握

全員の認識率が91.3[%]と高かった 状態遷移の個人差は見られなかった



状態"31"

5人の被験者の認識率(その他のタスク)

	全員の認識率(%)
タスクc	96.4
タスクd	80.7
タスクe	12.3
タスクf	87.1

タスクc掌物体乗せから指先把握タスクd指先把握から掌物体乗せ

タスクf 円柱軸回転(拇指押し出し方向)

全員の認識率は高かった 状態遷移の個人差は見られなかった

タスクe 円柱軸回転(拇指引き込み方向)

全員に関してほとんど認識できなかった 認識エラーの大半は何も認識しないケース 同一被験者でも操作パターンの再現性低



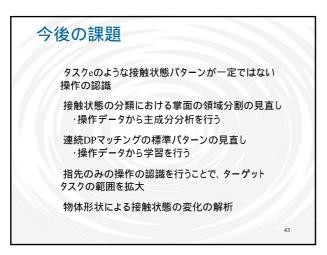
結論

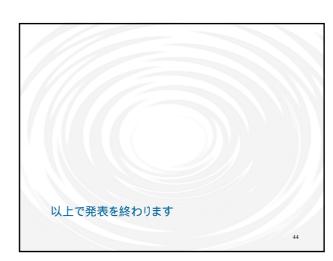
教示の対象物体に直接センサを取り付けることで高精度 な作業計測システムを開発した

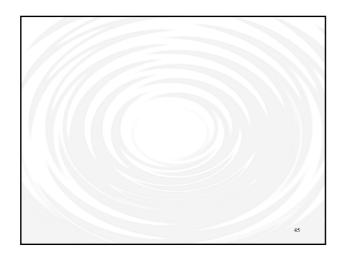
この装置を用いて正確な物体表面の接触位置及び 掌面の接触部位の検出を行った

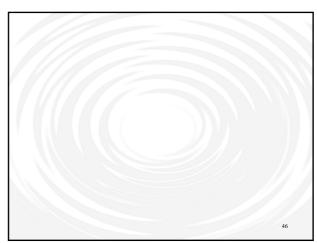
検出した掌面の接触部位の情報を用いて接触状態の遷移 から操作認識を行った

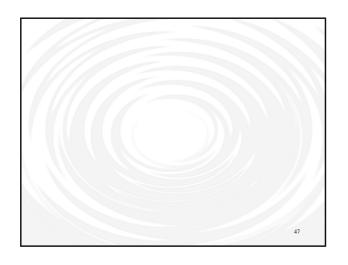
- ・6つのタスク中、5つの認識率は平均84.2[%]
- ・本手法の有用性を確認した

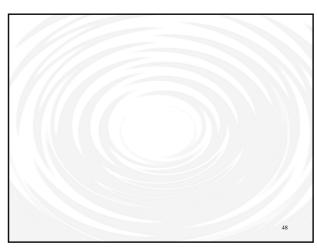












なぜ操作認識を行うか 動作計画の際、物体の運動軌跡を単純に再現するだけでは 不十分 → 物体の運動軌跡の情報と合わせて操作認識の結果を 用いた動作計画 人間の操作をヒントにすることで最適なハンドの動作計画が実現

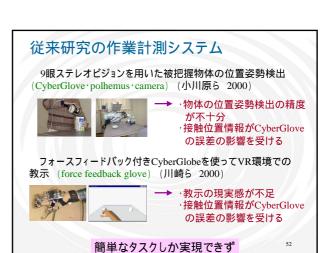
なぜ接触状態に注目したか

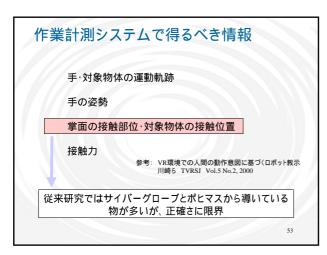
·指先や物体の位置,速度の変化から操作認識する方法では微妙な接触の判定が困難

・指の運動を伴う物体操作では接触位置情報の変化が伴う

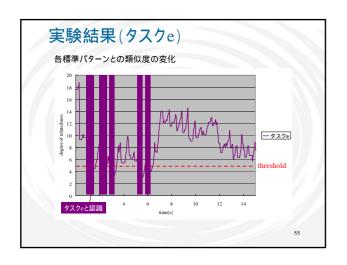
50

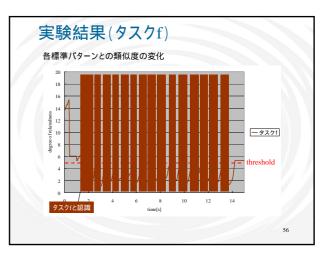
研究の背景 宇宙・海底等の極限環境 医療・福祉等の人間社会環境 人間の代わりに複雑で多様な作業を器用に行うことが期待











従来研究の物体操作認識システム

9眼ステレオビジョンを用いた被把握物体の位置姿勢検出 (小川原ら 2000) 対象タスク・・・卓上作業

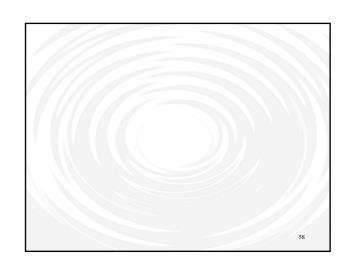
フォースフィードバック付きCyberGlobeを用いたVR環境での 教示(川崎ら 2000) 対象タスク・・・ビックアンドブレース

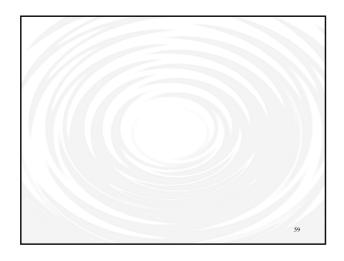
これらの研究の対象タスクは物体操作に指の動きが伴わない

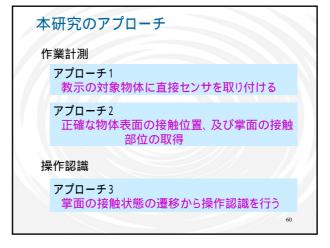
複雑な操作の認識を行う上での問題点

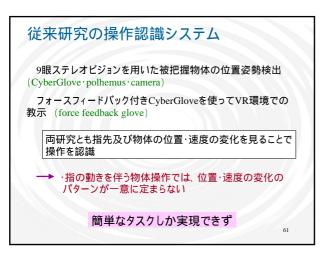
·CyberGloveのみで得る接触位置情報は精度が悪い - 複雑な操作は接触位置の変化を伴うため接触位置情報は重要 ・指先や物体の位置、速度の変化から操作認識する方法 では微妙な接触の判定が困難

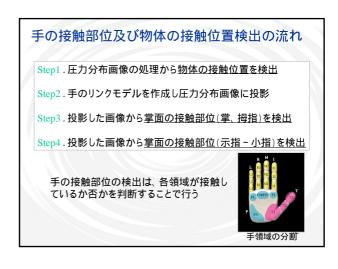
5

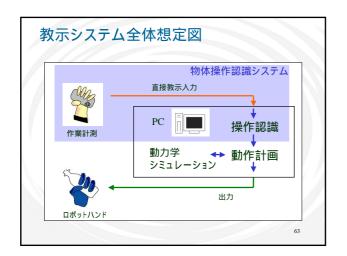


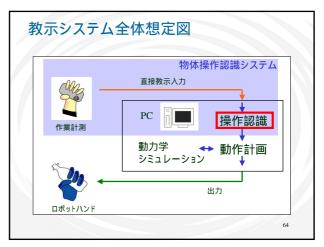


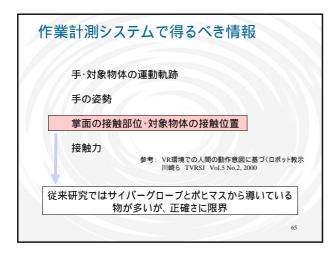


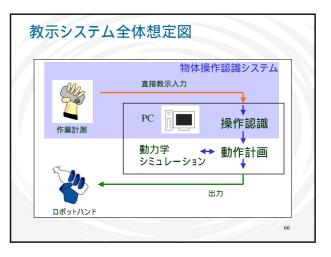






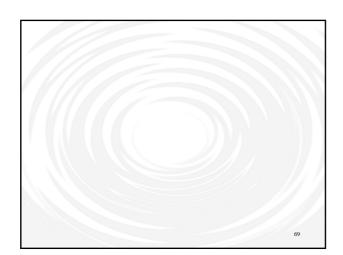


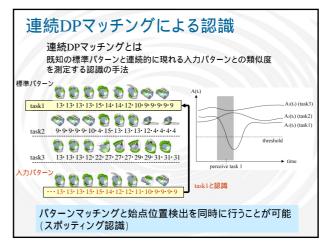




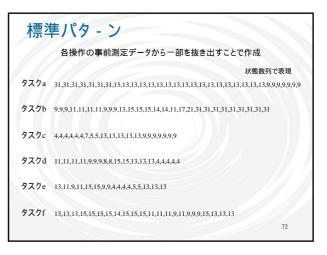


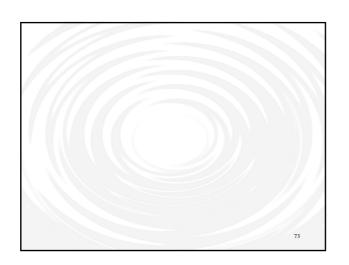
本研究でターゲットとする操作 人間が行う操作との比較 理想的な操作認識 本研究のターゲット 指の区別 5本の指ごとに区別 拇指と他4本で区別 操作に関わる 手の部位 指先+リンク+掌







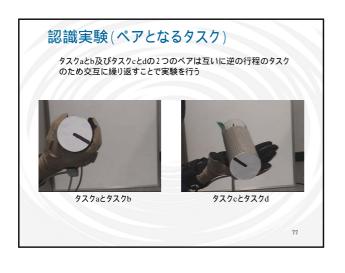


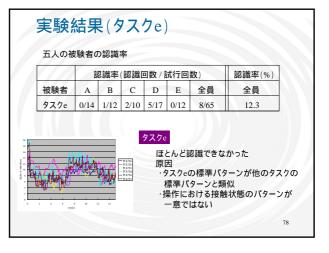












実験結果(タスクf)

五人の被験者の認識率

	i	認識率(%)					
被験者	Α	В	С	D	Е	全員	全員
タスクf	15/15	13/13	9/11	9/12	8/11	54/62	87.1

タスクf

全員の認識率は87.1[%]と高かった 状態遷移の個人差は見られなかった

79



認識実験

5人の被験者A~Eで6種類のタスクa~fについて実験を行った

各タスクの標準パターンは被験者Aの操作の事前測定 データから一部を切り出すことで作成した

入力パターンのマッチングは6種類の標準パターン全てに対して同時に試みた

被験者の手の大きさに合わせてリンクモデルの調整 を行った

81